

テレビで「天気後報」をやってくれないかな。1日の終わりに、その日の予報を検証して、説明する専門番組だ。

空の下でスポーツをする者にとって、天気への不安は付き物。天気予報は不可欠だ。ましてや明日が、大事な試合ともなれば、雨や風を制した者が勝つと言っても過言ではない。天気予報の時間はテレビにくぎ付けになる。録画までしたりする。スポーツに限らず、キャンプ然（しかり）、釣り然りだ。

そして、スポーツを終えた後、反省したり、熱い思いを反芻（はんすう）したりすると同時に、やはり、その日の天気にも思いをはせる。その時、1日の終わりの検証として「天気後報」番組を見てみたい。ぜひ、やつてもらいたいのだ。

「今日の天気はどうだったでしょうか？ 実際の雲の流れを見てみましょう」とCG画面が映る。「では、今朝7時に予報したモノと比べてみましょう」。別のCG画面をダブらせる。そこで「天気後報」の解説者が、なぜ予報が外れたのか、または、なぜ当たったのか、詳しく報告してくれる。

私たちは、今日の野球の試合中に、降らないとされていた雨がなぜ降ったのか、その原因を知りた

い。天気を理解し、更にスポーツを楽しみたいのだ。

それに「カミナリは 地方には午後、発生するでしょう」と、朝の時点で予報し、その通りに雷が発生したらどうだろう。気象予報士としては、ガッツポーズものではないだろうか。ぜひ自慢して欲しい。私たちもその自慢を見たい。スポーツの熱気を思い返すと同時に、気象予報士たちの、天気を当てたという立派な行為に拍手を送りたいのだ。ぜひ「天気後報」番組をやってもらいたい。

「天気後報」の視聴率？ 大丈夫。だって、スポーツを楽しむ人なら、みんな見てみたいでしょ。

【朝日新聞・マリオン】

2006年12月13日掲載